

第六回 「ケンブリッジで白洲次郎に‘会う’」

岡部 芳彦

ケンブリッジ大学紋章家系図学会（CUHAGS）の年次晩餐会に出席しました。この学会は各カレッジで毎月、イギリスの系図や紋章から家系をたどる研究会を開いています。年に2回、学会員の情報交換や懇親を目的として正装での晩餐会をケンブリッジのクレア・カレッジで催しています。

このカレッジは、戦前は近衛文麿首相の、戦後は吉田茂首相のブレンとして日本の戦後改革期やサンフランシスコ平和条約締結で活躍した白洲次郎の出身校ということで日本では知られています。白洲次郎は、タレントの明石家さんまさんが尊敬しているというほど幅広く支持されている人物で、戦前はブガッティやベントレー、戦後はポルシェなどのスポーツカーを駆り、近年「日本一カッコいい男」と称されたりもします。真偽は分かりませんが、日本で最初にジーパンを履いたとか、昭和天皇からの贈り物を床に置けといった連合国最高司令官マッカーサー元帥を叱りつけたといったエピソードも残っています。ここクレア・カレッジで出会ったロビンこと第7代ストラトフォード伯爵とは終生の友となりました。日米関係だけではなく、日英交流の歴史にも足跡を残した人物です。2009年には伊勢谷友介さんの主演でNHKのドラマにもなり、このクレア・カレッジでもロケ撮影が行われました。

宿泊はクレア・カレッジの学生寮内のゲストルームです。ケンブリッジには観光客に開放されているカレッジもありますが、クレア・カレッジの建物の内部は基本的には非公開です。今回は、クレア・カレッジの教育の責任者であるシニア・チューターで科学史の第一人者パトリア・ファラ博士のお計らいで、カレッジ内の「ジロー・シラス・アーカイブ(白洲次郎関係資料)」を特別に見せていただくことになりました。

アドミッションブック（入学者名簿）では、Shirasu Jiro と書かれた横に Kobe と出身地が書かれており、神戸の大学で教壇に立っているのが縁深いものを感じました。その横にはさらに出身校が神戸一中（現在の神戸高校）と書かれていました。同高校出身の僕にとっては大先輩にもあたります。貴重な史料を見ていくうちに、なにやら白洲次郎に実際に「会った」気になりました。

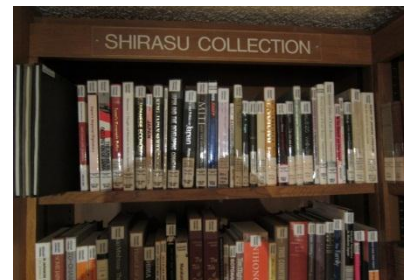
ケンブリッジ大学紋章家系図学会の晩餐会のドレスコードはホワイトタイという最上位の正装で、燕尾服に白の蝶ネクタイです。オーケストラの指揮者の格好と言えば分りやすいでしょうか。晩餐会が行われたグレイト・ホールと呼ばれるバンケットは17世紀に作られました。



白洲次郎の載った
アドミッションブック
(入学者名簿)を見る。



クレア・カレッジに入学した頃の
写真(後列中央が白洲次郎
:岡部撮影)



クレア・カレッジ生専用の寮内の図書館と
ウォーバーグ証券(現 UBS)の寄付による
日本関係書籍 ‘Shirasu Collection’

ひとりの日本人、白洲次郎がこの由緒あるグレイト・ホールでの晩餐会などで、ロビンことストラトフォード伯爵やカレッジの同級生たちとお互いの意見を交換し、親交を深めていたかと思うと、日本とイギリスの歴史的な関係の深さを感じました。彼らには及ばないにしても、今回の在外研究を通じて、日英の交流が深まるのに少しでも役に立つことが出来ればと改めて思いました。



食後のひととき。
だいぶリラックスしてますね。



ケンブリッジ大学紋章家系図学会の年次晩餐会。
クレア・カレッジのグレイト・ホールにて。